

佐大フケツチ

「学生たちに日本の植物を見せたい」と語る宮脇先生(右手前)。右下の白く丸いのはオオシロカラカサタケ



構内は自然がいっぱい

に食べられて、傘の部分が少し欠けているのもあった。

「ついでに」とラクウシヨウの並木に案内された。「これ、なんだと思いますか」。先生は木から少し離れた所にある茶色い「シロコ」を指さす。見るとどの木の下にもある。ラクウシヨウは北米の針葉樹。湿地帯に生えることが多く、茶色のこぶは気根とのこと。毎週通っているのに全く気づかなかった。

この並木には先生が種をまいたツワブキが育っている。外国の木が多いキャンパスなので、学生たちに日本の植物を見せたいという思いだ。タイサンボクには大きな白い花が咲き、ほのかに甘い良い香り。正門近くには俗名「なんじゃもんじゃの木」ヒトツバタゴの大きな木があり、五月にはせいそな白い花を咲かせた。

最近、キャンパス内のクリークでは蜚も飛ぶようになった。学生たちがこの自然の宝物に気づく仕掛けを考えなければと思う今日このごろである。

(佐賀大学理事・北島悦子)
※次回は七月八日の予定です。

大学会館の木の下で鳥の巣を拾った。直径は七センチ。材料は松葉のようだが、ところどころにビニールひもも。さて、この巣の住人は。スズメはこんな精巧な巣は作らない。ムクドリやカチカラスには小さすぎる。こんな時には、理数教育講座の宮脇博巳先生にお聞きするのが一番。写真をメールで送ったが残ぬれて灰褐色に変色。なめくじ

念ながら分からないとのこと。

最近、先生から「大きなキノコが生えています」とメールを

いただいた。早速一緒に見に行

った。楠の木の周りに、きれいな

な田を描いてキノコが生えてい

る。名前はオオシロカラカサタ

ケ。先生からの写真では大きな

白い傘のキノコだったが、雨に

ぬれて灰褐色に変色。なめくじ